

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第44号 平成23年5月号

母の手の
しわの数だけ
感謝あい



発行



有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169
福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2
TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467
URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>
E-Mail info@motomiya-mcs.jp

メンテナンス 停電対策してますか？

東日本大震災では揺れや津波による甚大な被害が発生し、電気、ガス、水道のライフラインがストップしました。また、度重なる余震により、停電もたびたび発生しました。さらに東京電力福島第一原発の事故による電力供給不足から計画停電が行われるなど、あって当たり前だった電気が利用できない事態が発生しました。そのような状況からか、震災後、停電対策のための機器が売れているそうです。

無停電電源装置

ノートパソコンの場合、バッテリーを搭載しているので、不意な停電の場合でもいきなりパソコン本体の電源が切れてしまうことはありません。しかし、デスクトップパソコンやネットワーク機器(ルータやハブ)はバッテリーを内蔵している機種はほとんどありません。そのため停電するとデータを保存する間もなく電源が切れてしまいます。

いきなりの電源オフは機器の故障にも繋がります。そのような場合に有効なのが無停電電源装置(UPS=Uninterruptible Power Supply)です。UPSとは大雑把に言えば、「停電を自動的に検知するバッテリー」です。



<無停電電源装置>

選ぶポイントは？

数年前まではUPSは高価な機器であったため、サーバーなどの重要な基幹機器に導入するものというイメージでした。しかし今は安価な製品も増え、クライアントパソコンやネットワークハードディスクにも導入するケースが増えてきました。

UPSを選ぶポイントとしては、給電方式、給電容量、バックアップ時間、自動シャットダウン機能の有無といった点が挙げられます。自動シャットダウン機能は、停電を検知して自動的に安全にパソコンをシャットダウンする機能です。また、落雷などによる急激な電圧増加を防ぐ機能を持った機種もあり、接続する機器の数や用途に合わせて選ぶのがよいでしょう。

メンテナンス パソコンも節電しよう！

東日本大震災による原発問題などにより、東日本では電力の供給不足に陥っています。政府が節電を呼びかけるなど深刻な事態に陥っています。震災の影響を考慮せずとも日頃から節電を心がけることはよいことです。省エネ・エコライフを目指しましょう！

こまめな電源オン・オフはNG!?

節電の基本といえば電源オフ。使っていない機器の電源をこまめに切るとは節電の基本中の基本ですが、パソコンの場合、頻繁な電源オン・オフの繰り返しは本体の基板やハードディスクの消耗を早め、機器の寿命を縮める原因になりかねません。また、電化製品は起動時に一番電気を使うと言われているので、頻繁過ぎるのは逆効果です。その代わりに、パソコンに搭載されているOSには電源管理の機能があり、この機能を活用して節電することが出来ます。

Windowsであれば、コントロールパネルの「電源オプション」から各種の設定を行うことが出来ます。モニターやハードディスクの電源を切るまでの時間や、システムスタンバイ・休止状態になるまでの時間などを細かく



<Windows XPの電源オプション>

設定できます。ご自分の使用環境に合わせて設定してみましょう。

モニターやUSBメモリでも！

スクリーンセーバーは画像や模様ที่ぐるぐる回転したりするようなものではなく、「ブランク」という真っ黒い画面のものを使用すると余計な電力を使わずに済みます。モニター画面の明るさを落とすことも節電になります。モニターが明るすぎないか、あらためて確認してみましょう。

パソコン本体だけでなく、プリンタなどの周辺機器も使用していない時は電源を切る、USBメモリを挿しっぱなしにしないなど、節電対策は身近にたくさんあります。

編集後記 今回の震災で数日間電気が使えない生活を余儀なくされ、電気がいかに生活に必要不可欠か身に染みました。特に携帯電話・スマートフォンが情報収集にとっても役立った反面、充電が出来ずかなり苦労しました。充電の手段は複数用意しておかなければいけないと感じました。最近は大容量のモバイルバッテリーといった製品もあり、持ち歩けば出先で携帯電話・スマートフォン等の充電を行うことができます。備えあれば憂いなしですね。(本田)